

## 令和4年度 教職員アンケート調査結果

項目Ⅰ、Ⅱ—1・2 4段階評価(青:できた 赤:ややできた 黄:あまりできなかった 緑:できなかった)

項目Ⅱ—3・4、Ⅲ 2段階評価 (青:できた 赤:できなかった)

重点項目	具体的な姿	R4 肯定的回答の目標値	令和4年度結果(%)	目標値
Ⅰ 自己有用感の育成	1 児童生徒が豊かなかかわりの中で自分や周りの人のよさに気づくような手だてを講じた	90%	23% 72% 5%	
	2 スクリーニングやアセス、QU等の諸検査結果を支援に活かした	90%	24% 58% 16% 2%	

1では、全体の肯定的評価が目標値を越えている。また、キャリアステージが上がるとともに「できた」と回答する割合は増加している。特に学級づくり研修の受講対象である3年目の者を含む育成期以降から向上期にかけて肯定的回答が高くなっている。また、担任をしている者の肯定的回答が高いことから、児童生徒のかかわりを意識した学級経営が行われていることが窺える。2では、諸検査等の結果分析や児童生徒の実態把握をより効果的な支援に結び付けていくことで、肯定的回答の割合をさらに高めていくことが課題である。

重点項目	具体的な姿	R4 肯定的回答の目標値	令和4年度結果(%)
Ⅱ 学力向上	1 学習意欲を高めるために、前時の振り返りから児童生徒と共に具体的なめあてづくりを行った	80%	19% 56% 23% 2%
	2 学習内容の定着を図るための時間を、毎時間設定していた	90%	26% 59% 14% 1%

目標値に到達していないが、1では「できた」、2では「できた」「ややできた」を合わせた肯定的回答の割合が昨年度よりそれぞれ増加した。しかし、どのキャリアステージにおいても否定的回答が2～3割程度あり、授業づくりについて課題を抱えている教員もいることが窺える。経験年数にかかわらず「魅力」を意識した授業に向けた授業改善をよりいっそう進められるよう、教職員研修等を通じて支援していきたいと考える。2では向上期で目標値を達成した。タイムマネジメントやICTを活用した授業づくりとも関連させながら、「徹底」を意識した授業づくりについても引き続き肯定的回答の割合をさらに高めていくことが必要である。

重点項目	具体的な姿	R4 肯定的回答の目標値	令和4年度結果(%)
Ⅱ ICT活用	3 ICTを活用する授業が行えるように研修(校内も含む)を受けた	90%	87% 13%
	4 児童生徒が1日に2回以上ICTを活用している授業を行った	60%	42% 58%

3は、どのキャリアステージでも肯定的評価が高くなっている一方で否定的回答もあることから、サポート研修や「ICTを活用した授業づくり研修」で各校が作成した具体的な活用場面をまとめた成果物を活用してもらおう等、校内研修の支援をよりいっそう行うことで目標値の達成をめざしたい。4は目標値を大きく下回った。キャリアスタート期から向上期にかけて肯定的回答の割合は増加するが、向上期をピークに充実期後半にかけて肯定的回答が減少している。Ⅱ—5「児童生徒が互いの考えを交換し、共有した話し合いができるようにタブレット端末等を活用している」の肯定的回答が低いこ

とから、児童生徒同士の協働的な学習場面での ICT 活用がさらに推進されるよう教職員研修の内容を工夫することも肯定的回答の向上につながるものとする。

## ＜教職員研修を活用して「Myアイデア」からの実践例＞

～Ⅲ-2『My アイデアを職場で共有し、活用しようとした』に『できた』と回答した方はどのように活用しようとしたのかお答えください(自由記述)より～

### ＜キャリアスタート期＞

- 研修したことや研修を通して考えたことを先輩の先生に伝えることで、逆に先輩の先生方のお話を伺う機会となり、日々の実践に生かすことができた。

### ＜育成期＞

- 鳥取市学校司書・司書教諭研修でのマイアイデアとして、ICT と図書をバランスよく使った学習をまずは自らが実践し、校内に広めていくことを考えた。実際に国語科や生活科の学習で図書を用いて調べ活動を行い、タブレットで共有・表現する学習を計画し、実践することができた。
- 研修で授業改善の視点を獲得ことができました。めあてとねらいの一貫性や、発問の仕方やタイミングなどを学年主任の先生と相談をしながら日々の授業の準備をすることができた。

### ＜向上期＞

- 特別支援教育の研修で学んだことを学校の研修で共有した。通常学級における特別な支援のいる児童について目標の立て方や支援の方法などを伝えた。
- 研修をもとに、学習の流れを示すアイテムを作成し、全学年の黒板に貼り授業で使用した。その結果、学校全体で共通した授業展開ができ、学び合いや適用題の時間が確保できた。

### ＜充実期前半＞

- 中堅教諭等資質向上研修で持ち帰ったアイデアをメンター研修の際に共有した。
- 中堅教諭等資質向上研修で学んだ内容から自校の研究にリンクできそうな考え方を精選し、職員会や主任会、メソッドプロジェクト会議で紹介した

### ＜充実期後半＞

- まず、校長先生に報告をし、学んだことを学校づくりにどう活かせるか協議した。それを受けて職員研修を企画し、研修で学んだことを伝達したりそのことをもとに校内研究や児童理解、業務改善に活かしたりした。
- 支援が必要な児童への指導に苦慮しておられる先生方に対して指導の方策が一つではないことを示唆したり、具体的な対応事例を紹介したりすることができた。また、研修の中で案内があった文献を購入して紹介し、全教職員に対して情報の共有を図った。
- 幼保小中研修で扱われた幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿について職場で共有し、幼児期の子どもたちの学びについて職員に関心をもってもらい、それを生かした来年度の教育課程や授業づくりに生かしていこうとした。